

# 地域に寄り添い40年 生活に役立つ地域情報をお届けします

上越ケーブルビジョン株式会社 取締役部長 沢田 真紀

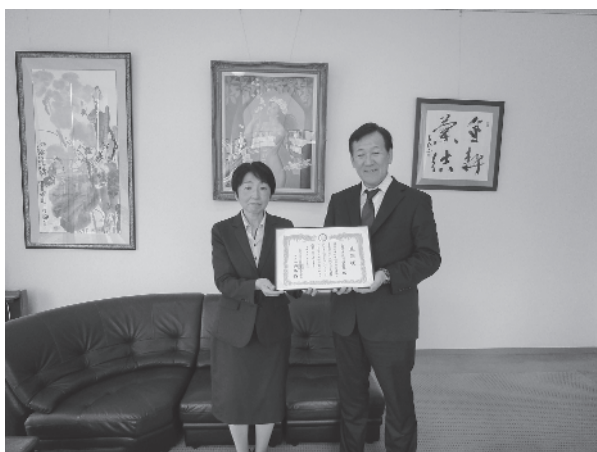


「上越ケーブルビジョン株式会社」は、新潟県上越市に本社を置き、上越市、妙高市、十日町市をエリアにテレビとコミュニティFM、インターネットサービスを提供する情報通信事業を営む会社です。その他、ウェブサイトや、地域商品販売を通じ、地域外への情報発信にも注力しています。地域の皆さまに支えられ、おかげ様で今年12月に、40周年を迎えることができます。

この度は、当社が長年行ってきた行政相談制度及び行政相談委員

制度の広報活動に対して、令和5年度全国行政相談委員連合協議会会長感謝状をいただき、誠にありがとうございました。

当社では、災害に強いメディアとして2015年に妙高市にFMみょうこうを開局。2021年には、上越市からFMじょうえつの事業を承継しております。上越市担当行政相談委員の阿部和子さんには、2015年4月から、月に一度、FMじょうえつにご出演いただいております。



上越ケーブルビジョンへの感謝状伝達

コーナーのタイトルは「ご存知ですか？行政相談」。行政相談という言葉があまり知られていない中、地域の皆さんにご理解いただき、普段の生活の中で慣れ親しんで欲しいという思いから、ながら聴きのできるラジオで、コーナーがスタートしたと聞いております。当時、FMじょうえつのスタジオは、上越市本町の雁木通りプラザの2階にありました。同じ建物の5階で、月に一度、阿部さんが定例の行政相談を行われていたのも、ラジオ出演のお声がけをさせていただいたきっかけです。定例相談が12時に終わった後、その足で2階のスタジオに降りてきてもらい、12時10分から10分間のコーナーにご出演いただいていたため、相談が長引き、滑り込みセーフ！の時もありました。それでも、落ち着いてお話をされる阿部さんの姿には、担当パーソナリテイも感銘を受けたと聞いております。現在は電話でのご出演が主です

が、阿部さんはボランティア活動等もされていて、その中で、出演の時間を作ってください、感謝の思いでいっぱいです。雁木通りプラザで行われている定例の行政相談には、弁護士や行政書士など誰に聞いたら良いか分からず相談に来られる方が多いと伺っています。なかには、一人暮らしで話を聞いてもらいたいという人も少なくないようです。阿部さんは、どんな相談にも真剣に耳を傾け、的確に関係機関へ繋ぐ役割を果たされています。1月1日に発生した能登半島地震の際も、家の前の灯籠が倒れたがどこに相談したらよいかなど、身の回りの相談が多い数寄せられていました。例えば、止まれの標識が木や草に隠れて見えなくなっている、道路の白線が消えている、グレーチングの隙間に車椅子のタイヤがはまってしまふなど、場所が特定される案件については、実際に現地に向かい、自分の目で状況を確認してから、

行政の担当課に伝えていらっしゃる。その後、回答をもらい、結果を相談者に伝えるところまでが行政相談委員のお仕事ですが、要望が叶わなかった場合、阿部さんは、相談者の立場で納得いくまで理由を聞き、きちんと相談者に説明することを心がけていらっしゃるそうです。番組の中でたくさんの方の事例を伺いながら、毎回、私たちも勉強させていただいております。行政相談委員は、市民にとって、信頼できる一番身近な相談相手です。「一回の要望で叶うことは少ない。関係者の声を反映し、何度も要望し、ようやく実現した時はうれしい」と話す阿部さん。相談者に寄り添い、諦めない姿勢には本当に頭が下がります。ラジオのコーナーが始まる前から、「一日合同行政相談所」のPRで、当社のテレビの告知コーナーにご出演いただいておりますが、様々な情報発信にも、かなり力を入れていらっしゃいます。

オンラインが進んだ時代と言われる中、対面でリアルに相談ができる定例相談は、大変貴重な機会であると感じています。相談内容が完全な個人情報のため、プライバシー保護に関する気苦労が絶えないのではないかと推察いたしますが、リスナーにとっては、様々な事例を紹介してもらうことで、ヒントや気づきになっていると思います。

また、当社の番組が、困っている方と行政相談委員とを繋ぐ懸け橋の役目を担っていることを大変うれしく思います。地域コミュニティの重要さが求められる中、様々な人たちの声を行政に届け、地域課題を共有することは、わたしたち地域メディアの役割だと感じています。その観点からも、直には言えない、言いにくい人たちの声を代弁者として届けている行政相談委員の皆さんは、リスペクトすべき存在です。阿部さんにお聞きしたところ、中には、行政相

談委員をやめる覚悟で、事実を調べ行政に掛け合ったこともあるそうです。それだけ親身になって相談にのってくれる相手が身近にいることは、生活の中で安心感に繋がります。自分事としてしっかり受け止め、納得いくまで追求し、実現できない場合は、その理由をきちんと伝える。市民と行政とのパイプ役は大切な役割と考えています。

私たちも阿部さんの諦めない姿勢を見習い、地域と人・未来を繋ぐ、地域情報のプラットフォームを目指し、スタッフ一丸となって取り組んでまいります。

いつも誰かのために奔走している阿部さん。どうぞお身体を大切に、ますますのご活躍をお祈りしております。

